

ぴかりん住職



皆さん、こんにちは。本光寺にいる「木魚のぼっくん」です。今回は少し難しい話しもありそうなので、僕一人ではなく、ご住職様にお聞きしながら勉強したいと思います。では、ご住職様をお呼びします。ご住職様ああああ



木魚のぼっくん

こんにちは。難しい話しと言うよりも、しっかり覚えてほしいことなのだよ。しっかり聞いてほしいと思います。まず初めに、本光寺の宗派でもある「日蓮宗」の宗祖はどなたでしょうか？

「日蓮宗」の宗祖は、日蓮聖人ですね。



正解です。では次に、今年は「日蓮宗」にとって重要な年だったけど、なぜか知っているかな？日蓮聖人に関することだけ。

わからないな。ぴかりん住職、教えてください。



今年は日蓮聖人が御降誕(誕生)されて800年目に当たる年です。本来なら大々的に御降誕800年の行事をしたいけれど、新型コロナの影響でできませんでした。本光寺でも社会状況を鑑み、秋の大祭に日蓮聖人の功績をたたえるために御降誕 800 年の御回向(功德を回し向けること)を同時に行いたいと思っています。さて次に、日蓮聖人には、皇室から送られた諡号(しごう)があるのを知っているかな？ちなみに諡号とは貴人の死後に奉る、生前の事績への評価に基づく称号のことだよ。

ぼくは「日蓮聖人」としか知らなかったです。



「日蓮聖人」は後光厳天皇から「日蓮大菩薩」の諡号を送られ、大正天皇からは「立正大師」の諡号を送られています。「立正大師」の立正は「立正安国論」を当時の幕府に提出したことから付けられたものと思います。「日蓮聖人」は比叡山延暦寺で修行をされて、修行の中で「妙法蓮華経」がお釈迦様の教えの中で一番大切に、「妙法蓮華経」を信じていくことが私たちを救う道と説かれました。当時は、その教えを理解されずに迫害を受けていました。「日蓮聖人」は、国を憂い、外敵の脅威を第五代執権の北条時頼に「立正安国論」の論文を提出しました。しかし、その考えは理解されず、他の宗派から迫害され、伊豆に流罪になってしまいます。のちに蒙古襲来(元寇)や北条氏一門の内紛「二月騒動」が起こり、「日蓮聖人」が「立正安国論」で預言した通りとなりました。「日蓮聖人」は自分の考えは正しく、お釈迦様の教えの「妙法蓮華経」が人々を救うという考え方を一貫して、民衆に伝えられました。「日蓮聖人」については、日蓮宗のホームページでは以下のように書かれています。(一部抜粋)日蓮宗の宗祖日蓮聖人は鎌倉時代後期に生まれ、混乱を極めていた国を法華経によって立て直し、多くの民衆を救おうと決意されました。その思想は広く深く、そして多面的な様相を呈しています。人によっては過激に映り、また別の人には情に厚い人物に映りました。学僧の様に論理に緻密でありながら、一方では命を惜まないほど行動的でした。画一的に捉える事が出来ないのが日蓮聖人の魅力です。

「妙法蓮華経」は、毎日修行している僕もまだまだ勉強しなくてはならないと思います。

「妙法蓮華経」は、二十八章あって、前半十四章を迹門(しゃくもん)、後半十四章の本門(ほんもん)という事を勉強しました。でも、全てを理解するには、まだまだ勉強が必要ですね。今年は御降誕 800 年目という大切な年なので、僕も一生懸命、修行したいと思います。



そうだね。人間はこの世に生を受け、亡くなるまで、日々修行だと思います。私にも修行することがまだまだたくさん残されているはず。ぜひ「はひふへ本光寺」をお読みになっている方々と一緒に勉強したいと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

合掌

はひふへ
本光寺
ほんこうじ

第24号

令和3年10月発行

西暦 2021

仏暦 2564

祖暦 799

皇暦 2681

本光寺のキャラクター



ぴかりん住職
ぼっくんのいるお寺の住職。



木魚のぼっくん
お寺にいる木魚の化身。頭をたたいて「ぼくぼく」と鳴らしている。

ご住職に

き

き

た

い

記者より いつもお世話になっております。今回はご住職の愚痴(笑)も含め、いろいろお聞きしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。さて、木魚のぼっくんとぴかりん住職のやり取りにもありましたが、今年は「日蓮聖人」御降誕 800 年とのこと。本光寺の日胤上人が堂宇を構えて 660 年ですが、ご住職の感想を一言お願いします。



住職 (以下 住)

こんにちは。記者さんがおっしゃった「日蓮聖人」御降誕 800 年は記念すべき年です。本光寺でも記念行事を開催しようと思いましたが、企画や準備に時間がかかります。また、コロナ禍において、昨年は総代との相談もできず、本光寺での記念行事は諦めざるを得ませんでした。秋の大祭「お会式」に合わせ、奉祝の御朱印を特別に配布させていただくことにしました。

記：日蓮宗では、歌舞伎座で「日蓮」の演目を行ったとお聞きしております。内容は、「日蓮聖人」の比叡山延暦寺の修行がメインだったみたいですね。「日蓮聖人」の足跡を追うのは難しいですからね。ところで、「日蓮聖人」御降誕 800 年にちなみ、ご住職 50 歳 (数え) の足跡などありましたら、お話しをいただけないでしょうか。

住：(苦笑) 私の人生を振り返ってですか。幼少期の話しよりも住職になってからの話しをしますね。私は 20 歳で本光寺の住職になりました。当然、檀家の皆さんは私よりも年上ですので、お孫さんに接するような感じで、昔の本光寺の事を教えていただいたこともあります。皆さんから見れば、大丈夫? という気持ちもあったのかもしれませんが。私が 100 日の荒行に行ったことで皆さんとの距離が少し近くなった気がします。気持ちも新たに皆さんと接することができ、成長した自分を見て

いただくことができたのかもしれませんが。その後、100 日修行を計 4 回行い、紆余曲折があり一生懸命、住職として日々修行に精進してまいりました。私の信念でもある「お寺の垣根をなくしたい」という気持ちから、若者向けのホームページの作成を行い、最近 YouTube を活用した朝参り会・夕参り会のライブ配信を行ってきました。少しでも、本光寺および私と皆さんとの垣根をなくすよう頑張っています。

記：いろいろ大変だったんですね。私の菩提寺のご住職が引退され義理の息子さんがご住職になられた時も大変だったみたいです。私個人も父が突然亡くなり、訳が分からないまま菩提寺のご住職と接することになり、何をしようか分からなかったことを思い出しました。本光寺の檀家さんの世代交代についてはいかがでしょうか?

住：先程話しましたように、20 歳で住職になった時の檀家さんは、今、ほとんど世代交代されていると思います。檀家さんの世代交代 (2 交代した方もいらっしゃいますが) は、私と檀家さんとの距離が遠くなるように感じました。記者さんの言われた通り、いきなり「明日から本光寺の事は任せよう」と言われても全く分からないのが皆さんの正直な気持ちだと思います。後を託された次世代の方々は、本光寺の事をご存じない方もいらっしゃると思いますので、まずは私に相談していただ



れば、いろいろとコミュニケーションもとれ、皆さんも安心なさるのではないかと思います。祖先を敬う気持ちは、世代交代があっても変わるものではなく、「日蓮聖人」の教え（お釈迦様の教え）も未来に向けて変わるものではありません。

もっともっと本光寺の事をわかっていただくためにも、未来を担う方々に、この「はひふへ本光寺」を読んでいただけるなら、私も住職として嬉しい限りです。

記：「はひふへ本光寺」は、皆さんにご住職の考え方や人柄を伝えるツールですからね。今

読んでいただいている方々だけでなく、お子さんやお孫さんも理解できるような紙面に今後もしてみたいですね。

住：その通りです。皆さんに親しみやすい本光寺になるよう、これからも精進していく所存です。私もこの身が果てるまで、日々精進していきますので、皆さんも健康に留意してコロナに負けないように一緒に歩んでまいりましょう。

今後とも、光胤山本光寺をよろしく願います。合掌

寺務員のひとり言

いつもご参詣ありがとうございます。

本光寺の新しい見どころ発見。

稲荷堂の前で、お百度参りができます。稲荷堂の仏神様に御祈願をお勧めします。縁切りの破魔矢があるのも稲荷堂です。

寺務所には、ご縁を結ぶ・願いが叶う叶結びや子宝祈願のぬり絵、御朱印帳のしおりなどの皆さまに幸を呼ぶお守り等をご用意しています。

本堂の浜縁でもお百度参りができ、叶結びの結び処が新しくできました。

今後とも本光寺をよろしく願います。

寺務所 根本・松本・佐々木

日蓮聖人御降誕 800 年を迎えて

日蓮宗宗祖「日蓮聖人」

日蓮聖人は、貞応（じょうおう）元年（1222 年）2 月 16 日に現在の千葉県鴨川市に、漁師の子として生まれました。鎌倉時代は、飢饉や流行り病、天災などが相次ぎ、また幕府と朝廷の権力争いが続く混乱した時代でした。幕府や朝廷の後ろ盾を得て多くの仏教宗派が教えを広めます。名利・清澄寺で出家し、勉強に励んでいた若き日の日蓮聖人は疑問を持つようになります。「人を幸せにするはずの仏教宗派がたくさん咲き乱れているのに、なぜ世の中は更に乱れるばかりなのであろうか。そもそも一人のお釈迦さまの教えであるはずの仏法に、なぜこれほど多くの宗派が存在し、その優劣を争っているのだろうか」。

日蓮聖人は、32 歳までの 10 数年をかけ、比叡山をはじめ、薬師寺・高野山・仁和寺などで仏教の教えを徹底的に学びました。その結果、来世ではなく現世での在り方を問い、" 今をイキイキと生きること " が説かれた「法華経」こそ、混迷した世の中を正し、人々を救う「お釈迦さまの真の教え」である、と確信を得たのです。建長5年(1253年)

4 月 28 日に千葉県鴨川市・清澄寺で、初めて「法華経を心の拠り所にします」という意味のお題目「南無妙法蓮華経」を唱えます。「法華経こそが、お釈迦さまの真の教えである」という日蓮聖人の主張は、その当時の仏教各宗派や、その既成仏教を支援していた幕府や朝廷の反感をも買うこととなりました。日蓮聖人は鎌倉松葉谷草庵焼き討ち、伊豆流罪、小松原の襲撃、龍ノ口での斬首の危機など様々な迫害を受けることとなります。「迫害を受けるのは法華経を広める者の証」とその強い意志を曲げることなく法華経を広める日蓮聖人の姿に、人々は心を動かされ、この頃から次第に教えに帰依する人の輪が大きく広がり始めました。幕府が、『立正安国論』の真意を汲み取ろうとしないことを悟ると、日蓮聖人は鎌倉を離れ、山梨にある身延山（現在の身延山久遠寺）へと身を置きます。国の将来を見据え、法華経を受け継ぎ「南無妙法蓮華経」= お題目を広める仏弟子の教育・育成に力を注ぎました。ご入滅後も日蓮聖人が一生涯を捧げた法華経の信仰は、身延山久遠寺（くおんじ）を総本山として、弟子達の手で更に大きく花開いてゆきます。日蓮聖人の遺志を受け継いだ弟子達が、全国各地でお題目の布教に努めたのです。



（日蓮宗ホームページより抜粋）